

アーティスト紹介

金藤 みなみ (きんとう みなみ)

アーティスト。1988年徳島県生まれ、東京都在住。衣装家・小道具家としてキャリアをスタートし、パフォーマンス、刺繍、zineなどを複合的に展開。2016年まで渋谷に在籍。女子美術大学・多摩美術大学大学院・新芸術校で学ぶ。

主な個展に「THE DOUBLE KISS すみだがわキスするふたつ」あをば荘（東京、2013年）、「The crying women」dongsomun (Seoul[韓国]、2018年)、「ザ・マスクウーマン」鶴見区民文化センターサルビアホール（神奈川、2020年）がある。

グループ展に、「芸術ハカセは見た！～徳島のひみつ～」徳島市立徳島城博物館（徳島、2020年）、金藤みなみ+GiliLavy 展覧会「イスラエルから来たコロッケ」ナオ ナカムラ（東京、2016年）、「反魂香」西方寺（東京、2017年）「かわる、うつろう、展覧会」GALLERY X BY PARCO（東京、2017年）などがある。



私たちがやがて消えてしまう。この歩行の追体験をするあなたは、私の2つ目の身体として機能します。最初の一步こそ意識的であっても、段々と無意識に「既に用意してあった(かもしれない)体験」に飲み込まれて行きます。それは生物一個の本能に依らない大きな生態系の現れです。本来歩行はその特性として“残らない”という宿命を選択しています。“残らない”中で右足を前に出す動きを左足が受け継ぎ、右足は左足を真似ます。沢山の足が無意識に数億年も昔の私たちと数億年も未来のあなたを会わせませす。私たちはやがて消えてしまうとして、あなたと私は出会います。私の歩行を真似るあなたに受け継がれる何か。あなたの固有性をここに捨てて。

